

NEWS Letter



Contents

三遠南信地域連携研究センター.....	2
私立大学研究ブランディング事業	3
2020年度 越境地域政策研究フォーラム	5
2020年度 シンポジウム・研究会	6
刊行物	8
アクセス.....	8



三遠南信地域連携研究センター



越境地域政策の科学的な確立に向けて

地域政策は、国・県・市町村などの行政区画を単位として立案・実行されます。このため歴史や文化の一体性、或いは広域的な政策需要が存在しても、行政境界を跨ぐ県境地域や国境地域など越境地域での政策立案や実施は容易ではありません。しかし日本国内でも市町村の約4割が県境に接しているなど越境地域政策の必要性は高く、むしろ行政境界を結び目とすることによって、閉塞感を持っている従来の行政制度や政策発想に縛られない地域政策の可能性を持っています。特に、歴史上類を見ない成熟国家の人口減少に立ち向かわねばならない我が国にとって、越境は不可欠な政策的視点であり、地域境界、地域システム、地域主体を越境する「越境地域マネジメント」が重要性を増しています。

愛知大学は、戦前上海にあった東亜同文書院大学を前身として、1946(昭和21)年に愛知県豊橋市に設立された、地域性と国際性の協調を理念とする大学です。三遠南信地域連携研究センターは、特に愛知県・静岡県・長野県の県境地域である三遠南信地域を対象として、様々な地域研究やGIS(地理情報システム)研究を設立以来推進してきました。特に、2013(平成25)年度から2018(平成30)年度まで、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度における「越境地域政策研究拠点」として認定され、越境地域政策の科学的な確立を目指して、国内外の130を超える研究機関との共同研究を推進してきました。

こうした実績を背景に、2018年度から、愛知大学として文部科学省私立大学研究ブランディング事業「『越境地域マネジメント研究』を通じて縮減する社会に持続性を生み出す大学」に選定され、その中核研究機関として「越境地域マネジメント」に関する基礎研究、地域と連携した応用研究、教育プログラムの開発を進めています。

◆これまでのセンターの取り組み

平成17年度 文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業	採択	5年間	「グローバルな視点に立った「地域づくり」 トータルシステムの開発」	研究代表者: 佐藤元彦 経済学部教授
平成22年度 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	採択	3年間	「三遠南信地域における「地域連携型GIS」 の研究」	研究代表者: 蔣湧 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 共同利用・共同研究拠点	認定	6年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業	採択	3年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授
平成30年度 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業	選定	3年間	「『越境地域マネジメント研究』を通じて縮減 する社会に持続性を生み出す大学」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授

三遠南信地域とは

「三遠南信地域」とは、愛知県東三河地域の「三」、静岡県遠州地域の「遠」、長野県南信地域の「南信」からなる県境を越えた広域地域です。





私立大学研究ブランディング事業

文部科学省が展開する「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学の機能強化の促進をめざすものです。

地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する取組(タイプA 社会展開型)と、先端的・学際的な研究拠点の整備により、全国的あるいは国際的な経済・社会の発展、科学技術の進展に寄与する取組(タイプB 世界展開型)の2種にて募集されました。

2018年度は157校から申請があり、学識経験者等で構成する「私立大学研究ブランディング事業委員会」において、実施体制及び事業内容・計画を総合的に審査され、計20校(タイプA: 11件、タイプB: 9件)が選定されました。

愛知大学の選定事業

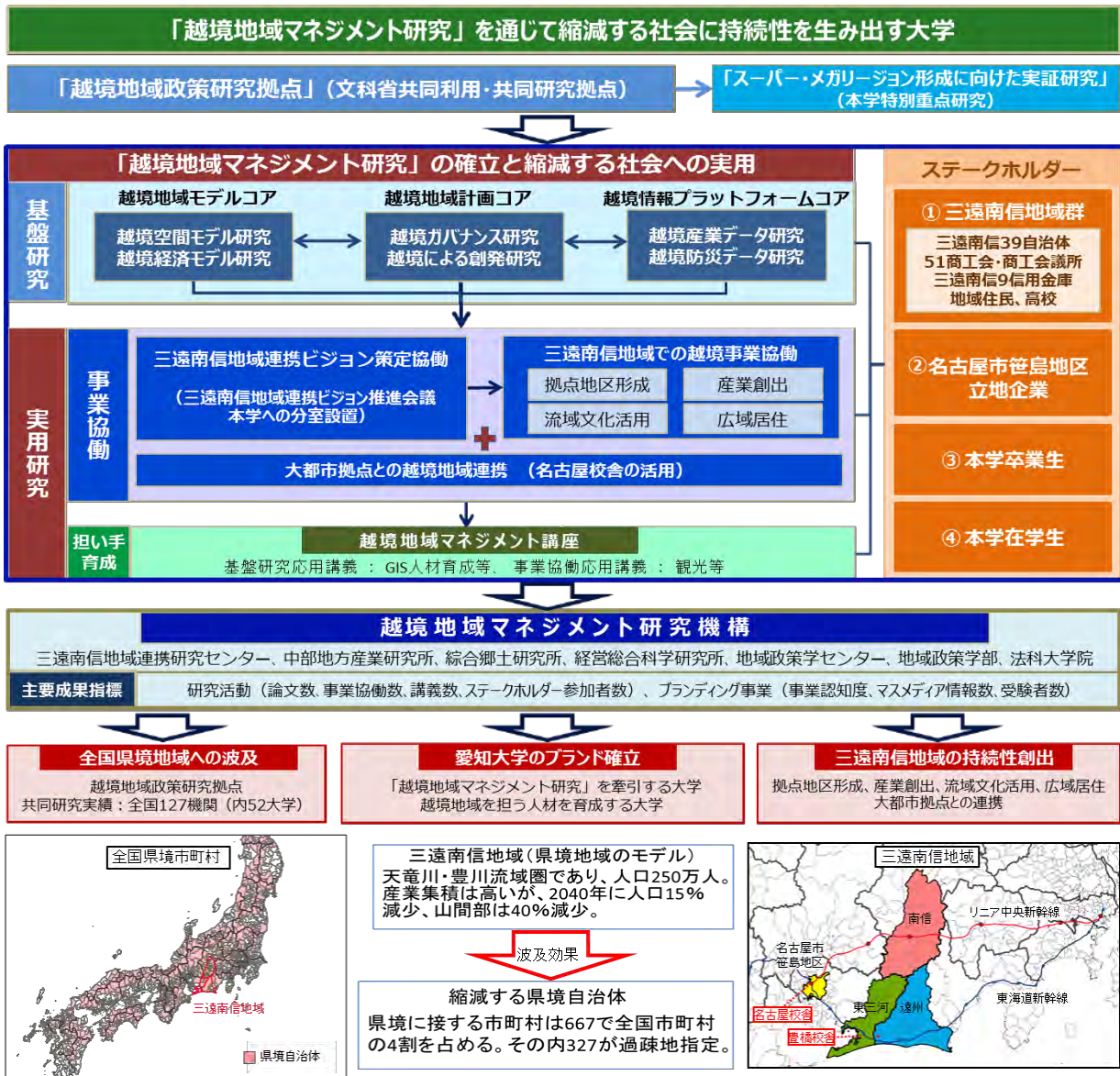
「『越境地域マネジメント研究』を通じて縮減する社会に持続性を生み出す大学」

参画組織＝三遠南信地域連携研究センター、中部地方産業研究所、総合郷土研究所、経営総合科学研究所、地域政策学センター、地域政策学部、大学院法務研究科法務専攻(法科大学院)

※事業タイプ＝「社会展開型」(タイプA) 期間＝3年

事業の概要

我が国の地方部は急速な人口減少により、縮減する社会に直面しています。民力が卓越した大都市部と異なって、地方部では行政境界が地域経営の障害となり、縮減する社会を支える地域連携が取り難いといえます。特に県境地域はその傾向が著しいです。本事業では、愛知・静岡・長野の県境地域を対象とした「越境地域マネジメント研究」を本学に拠点化し、その実用によって縮減する社会に持続性を生み出すとともに、全国県境地域への波及効果を目指します。



研究の意義

本学は、1901年中国上海に創設された東亜同文書院大学の関係者を中心に1946年に中部地域唯一の法文系大学として、愛知県豊橋市に設立されました。設立趣意書には、東亜同文書院を背景とした《国際的教養と視野をもった人材の育成》とともに、6大都市以外の地方都市に初めて立地した旧制大学として《地域社会への貢献》を挙げています。

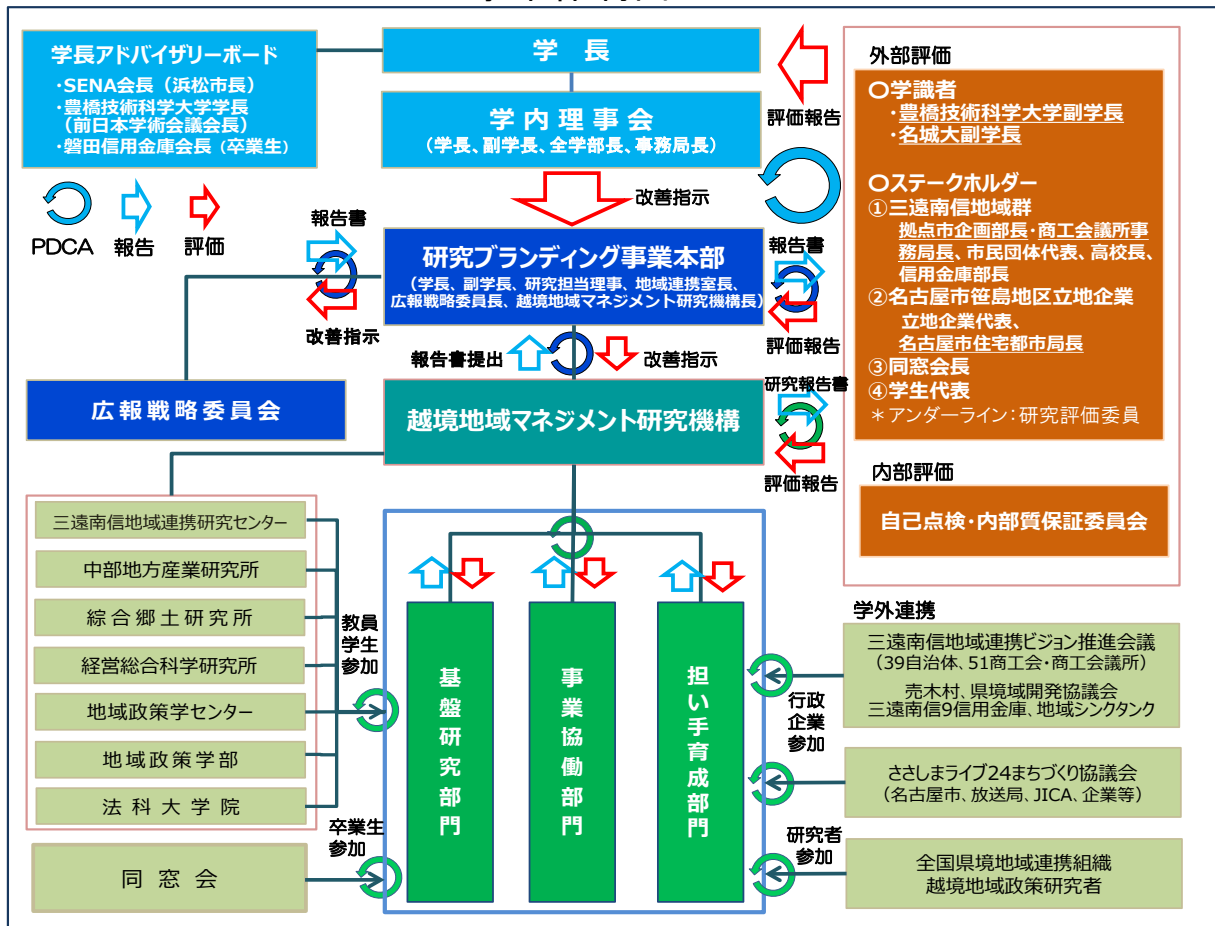
本学発祥の地である豊橋校舎では、《地域社会への貢献》を地域研究に展開する視点から、1951年には「総合郷土研究所」、1953年には「中部地方産業研究所」を設置しました。その後、豊橋校舎が立地する豊橋市の広域連携が進み、豊橋市を中心とする愛知県東三河地域、浜松市を中心とする静岡県遠州地域、飯田市を中心とする長野県南信地域からなる「三遠南信地域」に後背地域が拡大してきました。こうした動向に対応して、本学は地域研究の対象を三遠南信地域に定めた「三遠南信地域連携研究センター」を2004年に設立し、「文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業・社会連携研究推進事業(2005-2009年)」、「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・地域に根差した研究(2010-2012年)」を実施してきました。更に2013年からは「文部科学省共同利用・共同研究拠点」の「越境地域政策研究拠点(2013-2018年)」に認定され、「越境地域政策」の確立を目指した全国的な研究を進めました。また、2011年には、三遠南信地域を研究・教育のフィールドとする「地域政策学部」を設立し、地域政策を担う人材の育成に展開してきました。

本学は、2012年に名古屋校舎を名古屋駅に隣接した大都市拠点「名古屋市ささしま地区」に移転開校しました。ささしま地区は、2027年の中央リニア新幹線開通によって三大都市圏が一体化されるスーパー・メガリージョンの一角であり、広域的な拠点性を有しています。こうした拠点性を活かすには、ささしま地区と広域的な後背地域を結ぶ越境地域連携が不可欠です。特に、三遠南信地域とささしま地区の間に多様な越境地域連携を形作ることによって、三遠南信地域が直面する縮減する社会に、大都市拠点と連携したダイナミズムを生み出すことは、三遠南信地域とささしま地区に校舎を持つ本学の新たな《地域社会への貢献》です。

期待される成果

「越境地域政策研究拠点」として取り組んできた既往の「越境地域政策研究」(基盤研究)の更なる強化を図るとともに、「越境地域マネジメント研究」として縮減する社会に実用するためには、分散する地域機能の拠点地区化とネットワーク、モデル的に応用できる越境連携事業、越境連携事業を支え得る人材が必要です。そこで、実用研究として、三遠南信地域の諸機関との越境連携事業協働、越境地域マネジメントの担い手人材育成を行ないます。これらによって縮減する三遠南信地域に持続性を生み出すとともに、全国の県境地域や海外の越境地域への波及効果を期待します。

事業体制図



2020年度 越境地域政策研究フォーラム



2021年2月27日(土)、第8回越境地域政策研究フォーラムをオンライン開催いたしました。

午前の部では、前総務省自治大学校長・現SMBC日興証券顧問の佐々木浩氏をお招きし、「越境的な広域行政制度の現状と課題」の題目で基調講演をいただきました。続いてディスカッションを行い、視聴者より寄せられた質問にお応えするなど、活発な議論が行われました。

午後の部は、研究発表会として、「スーパー・メガリージョンの国土計画的変容」、「都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開」、「大都市圏中間地域の地域計画的展開」の3つのテーマで、13タイトルの研究発表と質疑応答が行われました。

愛知大学では、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受け、「越境地域マネジメント研究」を本学に拠点化し、その実用によって縮減する社会に持続性を生み出すとともに、全国具像地域への波及効果を目指しています。その一環として、本研究フォーラムを下記の通り開催いたします。越境地域政策に関心を持つ皆様のご参加をお待ちしております。

日時:2021年2月27日(土) 10:00~ **オンライン開催**

10:00~12:00 午前の部:講演会

- あいさつ 川井 伸一 (愛知大学学長)
 趣旨説明 戸田 敏行 (愛知大学三遠南信地域連携研究センター長)
- 基調講演 「越境的な広域行政制度の現状と課題」
 佐々木 浩氏 (前総務省自治大学校長、現SMBC日興証券顧問)
- コメント・質疑応答
 登壇者 佐々木 浩氏 (前総務省自治大学校長、現SMBC日興証券顧問)
 後 房雄 (愛知大学地域政策学部教授)
 入江 容子 (愛知大学法学部教授)
 コーディネーター 菊地 裕幸 (愛知大学地域政策学部教授)

13:00~17:40 午後の部:研究発表会

愛知大学特別重点研究「スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究」

スーパー・メガリージョンの国土計画的変容 (13:05~)

- ・ポストリアの東海道新幹線利用意向について: 鈴木祥季(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究員)・戸田敏行(愛知大学地域政策学部教授)・高橋大暉(東三河地域研究センター)
- ・広域連携の課題と展望—水平的連携、垂直的補完と自主性・自立性—: 入江容子(愛知大学法学部教授)
- ・産業知識の地域集積に関する実証研究—自動車部品産業を対象に: 蔦浜(愛知大学地域政策学部教授)
- ・リニア中央新幹線 Post COVID-19への視点—整備新幹線沿線から考える: 齋引素夫(青森大学)
- ・コロナ禍における県境地域づくりの考察—「信越県境地域づくり交流会」の取組を通じて—: 内海巖(上越市創造行政研究所)

◇コーディネーター: 戸田敏行(愛知大学地域政策学部教授)

都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開 (14:45~)

- ・ささしまエリアマネジメントにおける交流機能の形成について: 内山志保(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究助教)・戸田敏行(愛知大学地域政策学部教授)・永柳宏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)
- ・地域における事業承継の現状と課題について—沖繩県・愛知県に関するアンケート調査の比較から—: 打田委千弘(愛知大学経済学部教授)
- ・リニア中央新幹線の時間価値(料金の設定): 神頭広好(愛知大学経営学部教授)・竹内啓仁(日本福祉大学)・駒木伸比古(愛知大学地域政策学部教授)

◇コーディネーター: 神頭広好(愛知大学経営学部教授)

大都市圏中間地域の地域計画的展開 (15:55~)

- ・三遠南信地域における研究蓄積の「可視化」—地理学関連文献を対象として—: 駒木伸比古(愛知大学地域政策学部教授)・村山徹(名古屋経済大学)
- ・中山間地域の社会的価値: 岩崎正弥(愛知大学地域政策学部教授)・森嶋久好(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究員)
- ・区域と自治—大規模合併を行った浜松市の事例から—: 鄭智允(愛知大学地域政策学部教授)・堀内匠(地方自治総合研究所)
- ・軽トラ市におけるノウハウ移転: 徐非凡(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究助教)・戸田敏行(愛知大学地域政策学部教授)
- ・軽トラ市におけるコロナ対応: 鈴木良尚(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究員)・戸田敏行(愛知大学地域政策学部教授)・鈴木祥季(愛知大学三遠南信地域連携研究センター研究員)

◇コーディネーター: 駒木伸比古(愛知大学地域政策学部教授)



第8回 越境地域政策研究フォーラム

文部科学省
私立大学研究ブランディング事業
(2020年度)

愛知大学三遠南信地域連携研究センター

◆お問い合わせ先
 愛知大学
 三遠南信地域連携研究センター
 〒441-8522
 愛知県豊橋市町畑町1-1
 TEL:0532-47-4157
 FAX:0532-47-4576
 E-mail:sen-center@aichi-u.ac.jp



基調講演
SMBC日興証券顧問 佐々木浩氏



開会挨拶
愛知大学学長 川井伸一



趣旨説明
愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行



2020年度 シンポジウム・研究会

アシタシアサロン

境を越えて、明日をつくる。

ASiTASiA

愛知大学 越境地域マネジメント事業/アシタシア

本学の私立大学研究ブランディング事業の中心テーマである『越境地域マネジメント研究』は、地域と地域、しくみとしくみ、人と人をつないで、持続可能な社会の形成を目指すものであり、豊橋校舎が立地する三遠南信地域と共に、名古屋校舎が立地するささしま地区も、その拠点地区として位置づけられています。アシタシアは、ささしま地区に人々の出会い、発見の場を創出し、さまざまな境を越えていくことで、日本社会の明日、未来をつくることを目指すプロジェクトです。



アシタシアコンセプト図

第1回アシタシアサロン

「縮減時代の新たな地域マネジメント」

<日時> 2020年10月2日(金) 18:00~20:00

<会場> 愛知大学名古屋校舎 グローバルコンベンションホール

<ウェブ参加> Zoom配信

<プログラム>

◆開会挨拶: 愛知大学学長 川井伸一

◆趣旨説明: 愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行

◆講演: 「縮減時代の新たな地域マネジメント」

神戸女学院大学名誉教授 内田 樹 氏



神戸女学院大学名誉教授 内田 樹 氏



第2回アシタシアサロン

「越境的な働き方」

<日時> 2020年11月12日(木) 18:00~20:00

<会場> 愛知大学名古屋校舎 グローバルコンベンションホール

<ウェブ参加> Zoom配信

<プログラム>

◆開会挨拶: 愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行

◆趣旨説明: 愛知大学法学部教授 入江容子

◆講演: 「越境的な働き方」

内閣府 地域活性化伝道師

空き家プロジェクトnanoda代表 山田 崇 氏



内閣府 地域活性化伝道師、空き家プロジェクトnanoda代表 山田 崇 氏

2020年度 シンポジウム・研究会

第3回アシタシアサロン

「越境的世代交代の未来像」

<日時> 2020年12月17日(木) 18:30~20:30

<会場> 愛知大学名古屋校舎 グローバルコンベンションホール

<ウェブ参加> Zoom配信

<プログラム>

◆開会挨拶: 愛知大学三遠南信地域連携研究センター長
戸田敏行

◆趣旨説明・基調報告: 愛知大学経済学部教授 打田委千弘

【基調報告テーマ】

沖縄県・愛知県における事業承継に関するアンケート調査をもとに、両地域の共通性と異質性を提示した。

◆パネルディスカッション

地域に新たな価値を生み出す事業承継のあり方を議論した。

○パネラー

●税理士法人リモト 代表社員税理士
前沖縄税理士会会長 友利博明 氏

●株式会社田村組 代表取締役社長
一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム 専務理事
田村太一 氏

●NPO法人まちの縁側育くみ隊 代表理事
錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役
名畑 恵 氏

●愛知大学経済学部教授 打田委千弘

○コーディネーター

愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行



愛知大学経済学部教授 打田委千弘



パネルディスカッション

三遠南信地域における地域おこし協力隊の現状と将来展望

<日時> 2020年12月14日(月) 17:20~19:45

<会場> 【主会場】 新城観光ホテル東館

【サテライト】 豊橋 愛知大学 豊橋校舎
設楽 関谷醸造(株)田口本社
東栄 のき山学校

【ウェブ参加】 Zoom 配信

<プログラム>

◆イントロダクション

○コーディネーター

愛知大学三遠南信地域連携研究センター長 戸田敏行

◆第1部: 基調講演「地域おこし協力隊による地域力の底上げ」

講師: 総務省地域自立応援課 課長補佐 菊地信果夫 氏

◆第2部: 調査報告「三遠南信地域おこし協力隊調査報告」

発表者: 愛知大学三遠南信地域連携研究センター
研究員 鈴木伴季

◆第3部: パネルディスカッション「地域おこし協力隊の展望」

○パネリスト

地域おこし協力隊(設楽町) 戸上麻美 氏・戸上直哉 氏

(株)トヨネフィッシュファーマーズ(豊根村) 熊谷仁志 氏

東栄町地域支援課 尾崎あゆみ 氏

地域おこし企業人(根羽村) 杉山泰彦 氏

○モデレーター

一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム専務理事
田村太一 氏

主催: 愛知大学・三遠南信地域連携ビジョン推進会議
一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム



パネルディスカッション

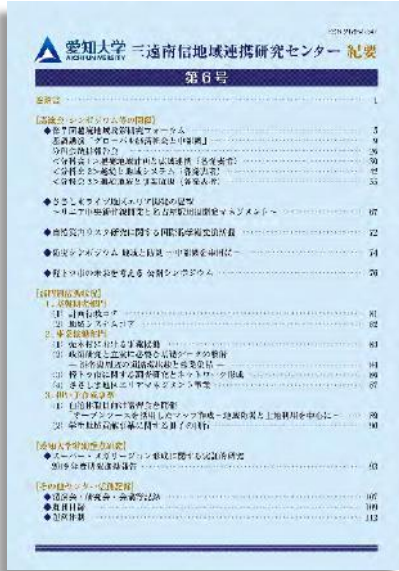
刊行物

■刊行物

『愛知大学
三遠南信地域連携研究センター
紀要 第6号』

三遠南信地域連携ブックレット6
『卒業後の地域貢献を考える』

三遠南信地域連携ブックレット7
『三遠南信地域における
地域おこし協力隊の現状と将来展望』



アクセス

■愛知大学豊橋キャンパスまでのアクセス



■愛知大学豊橋キャンパスマップ



■お問い合わせ先

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町 1-1
TEL 0532-47-4157 FAX 0532-47-4576
URL <http://edu.aichi-u.ac.jp/san-en/>

